

## No.7「辞書を活用する習慣を身に着けよう」

Q 1 : どのようなときに辞書で調べたらよいのですか。

A : (1)開倫塾のテキストや教材、問題集、学校の教科書や資料集などありとあらゆる教材を勉強していて、意味のよくわからない語句に出会ったら、「**気持ちが悪い**」と考え、辞書を用いて調べるのが大切です。

(2)大切なのは、「**意味のよくわからない語句に出会ったら、『気持ちが悪い』と考える**」ことです。

(3)時間があまりなければ、意味がよくわからなくてもスルーしてしまえばよい、読みとばして大体の意味がわかればよいという考えもあります。しかし、できるだけ、意味のわからない語句はそのまま放置しないで、辞書を用いて意味を確かめ、十分に「理解」したほうがよいと考えます。



Q 2 : 辞書で意味を調べたあとは、どうすればよいのですか。

A : (1)辞書で「調べた意味」は、「ノート」や「カード」に書き写し、よく「理解」することです。「理解」できなければ、更(さら)に調べる、わかるまで調べることです。

(2)意味を書き写し、よく「理解」できた語句は、「音読練習」や「書き取り練習」を繰り返して、その語句の意味を正確に覚えること、筆順も含め正確に書けるまでにすることです。

(3)一度調べた「語句」と「その意味」をよく「理解」、正確に覚え、正確に書けるまでにすることで、身に着けている「ことばの数」が一気に増えます。

(4)身に着けた「ことばは力」「ことばの数は力」です。「読解力」の基礎ができます。



Q 3 : 「意味調べノート」や「単語カード」は、そんなに役に立つのですか。

A : (1)一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は、1ページ目から、又、1枚目から昨日作成したところまで、毎日、声を出して読み続けることです。知らないうちに、全部覚えられます。

(2)その意味も含めて、よく書けなそうな語句は繰り返し「書き取り練習」をすることです。必ず、正確に書けるようになります。

(3)①一度作成した「意味調べノート」や「単語カード」は決して処分しないで、「一生保存」、繰り返し読み直しましょう。

②短い期間の記憶(短期記憶)が長い期間の記憶(長期記憶)になり、「記憶の痕跡」を残すことができます。忘れることが少しずつ減ってきます。

③辞書で調べた語句のすべてを、身に着けることができます。



Q 4 : 英語はどのような辞書を使えばよいのですか。

A : (1)①「英和辞典」、「和英辞典」、「英英辞典」の3つの辞書を使いこなしましょう。

②どの辞書も「初級用」、「中級用」、「上級用」があります。自分の英語のレベルに合わせて活用してくださいね。

③電子辞書でも紙の辞書でも OK です。どちらも使いこなせるようにしておくとう便利です。

(2)①電子辞書は、持ち運びに便利です。紙の辞書は、落ち着いてじっくり勉強するのに便利です。

②大学や大学院によっては、入学試験や学校の定期試験のときに「紙の辞書」のみ持ち込み可の場合があります。「電子辞書」にはパソコン機能がついていることがあるからです。

③「紙の辞書」は普段から使い込んでいないと、パツ、パツ、パツと調べることができず、役に立ちません。高校卒業までに、「電子辞書」と「紙の辞書」の両方を使いこなせるようにしておいてください。一生にわたって、どちらも必ず役に立ちますよ。



「英英辞典」にも少しずつ慣れ、使いこなそう

(1)「英英辞典」とは、「英語の意味が英語で書いてある辞典」です。

(2)英語の学習に少し慣れてきたら「英英辞典」を積極的に使って、できるだけ早く使いこなしましょう。

(3)「英英辞典」にも、「入門用」「初級用」「中級用」「上級用」と、学習者のレベルに応じたものがあります。自分の英語能力に応じたものを選び、積極的に使いこなしてください。

\*英語で様々なことを表現するときに、とても役に立ちますよ。

Q 5 : 家には辞書がないのですが、どうすればよいですか。

A : (1)「学校図書館」や「公共図書館」には、すべての辞書があります。

(2)図書館が使えるようになったら、毎日でも図書館に行き、ありとあらゆる辞書を使いこなしてください。

(3)「ことばは力」です。「ことばの力」を身に着けるのに一番役に立つのは「辞書」です。図書館にある「辞書」を使いこなしましょう。

Q 6 : ところで、身に着けていることばの数は多いほうがよいのですか。

A : (1)①当然です。普段の生活をするときも、学校で授業を受けるときも、仕事や社会的活動をするときも、目の前に書いてある「ことば」の意味がわからなければ、先に進みません。

②他人と話をしているとき、学校で授業を聞くとき、仕事や社会的活動をするときに、そこで話され、耳にすることばの意味がよくわからなければ大変です。

③ 1 つ 1 つの「ことば」の意味がよくわからなければ、自分が考えたり、話をしたり、書いたりするときに、とても困ります。

(2)①このように、「ことば」の「意味」を知り、「読める」「聞き取れる」「書ける」「話せる」こと、つまり、そのことばを「身に着ける」ことはとても大切です。

②「自分が身に着けていることばの数」は、「少ないよりは多いほうがよい」ことは当然です。

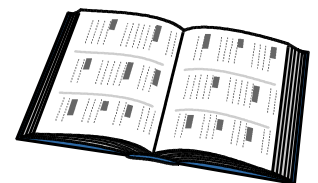
③ 1 つ 1 つの教科には、教科ごとに用いられることば(語句)が 1000、2000 と、1000 単位であります。

(3)①同様に、1 つ 1 つの仕事や社会的活動にも、その仕事や活動ごとに用いられることばが 1000、2000、3000 と、1000 単位であります。

②「こんにちは」「元気ですか」「おやすみなさい」など「あいさつ」のことばを使いこなすことも大切ですが、「生活で用いることば」「学校で用いることば」「仕事や社会的活動で用いることば」など様々な分野で用いる 1000 単位のことばも大切です。これは、日本語だけでなく、英語をはじめすべての言語でも全く同じです。

③少し大変かもしれませんが、わからない語句に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず辞書で調べる。そして、調べたことは「意味調べノート」か「単語カード」に書き写し、正確に読めて、書けるようにする。さらには、「意味調べノート」や「単語カード」は、いつも 1 ページ目から、1 枚目から読み直し、全部正確に覚え、正確に使えるようにする。

(4)これが、身に着けていることばの数をどんどん増やしていく方法です。



Q 7 : 最後に一言どうぞ。

A : (1)「ことば」を身に着けるときには、どのような「場面」や「状況」(これを「文脈 context(コンテクスト)」といいます。)でその「ことば」が用いられるかをよく「理解」し、身に着けることが大切です。

(2)ですから、1 つ 1 つの「ことば(英語なら単語)」ごとに「意味」や「書き方(つづり、スペリング)」を身に着けるのではなく、その「ことば(単語)」が用いられている文章も一緒に「音読練習」などを通して覚えてしまうことをおすすめします。

(3)ぜひ、チャレンジしてくださいね。